

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字子抱8－110－7		
自己評価作成日	平成25年9月14日	評価結果市町村受理日	平成26年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372100974-00&Pr efCd=03&Ver si onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成25年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの考え、思いを尊重し、職員が壁を作らず入居者と職員が共に暮らすことを心掛け、一人ひとり穏やかに生活していただき、いつも楽しみを持って生活していただけるよう努めています。また、母体が医療法人で訪問診療、訪問看護など医療の支援があり、健康管理が充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームきららは、国道4号線から西へ約1.5キロメートル入ったところにあり、周囲には水田や畑が広がる。美しい田園風景の中で四季の移ろいに触れながら、自ら花や野菜の栽培も楽しめる環境である。また、入居者の居心地の良さを追求して工夫が凝らされている。南向きの明るいリビングに面して、外への出入りが出来るウッドデッキやウインターガーデンが続き、また、屋内ではリビングに隣接して小上がりや廊下が機能的に配置され、入居者のその時々々の多様な過ごし方への配慮がうかがえる。運営理念として、平成16年の開設から、「共に暮らす、管理しない、自立する方向へ、施設外の人との交流」などを掲げているが、職員の日々の介護の実践の中にこれらの理念が反映されているのを感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理するのではなく、入居者、職員が共に暮らすという基本理念の下に、「皆が笑顔で生活できる場所」との考えを持ち、日々努力している。	理念は、「共に暮らす。管理しない。介護度を下げる。自立する方向へ。施設外との交流」である。平成16年の開所当時に皆で議論をして作った。年月経過により全員で見直しが必要かどうか検討したが、なお到達してない点があるとして、この理念を継続使用することとしている。理念を活かした運営、特に「管理しない、壁を作らない」が共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設として自治会に加入し、地域、小学校の行事などに招待を受け、参加している。	地域の運動会に、入居者全員で参加したり、芸術祭に作品の出品を依頼され、参加している。また、地域の敬老会に出席する一方、地域からは婦人会やボランティアに来訪して頂いたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段の近所づきあいや交流会などを通して利用者の現状を理解していただいている。また、対応法についての相談を受けることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容を報告し、アドバイスを頂いている。また、非常時の援助など、協力をお願いできる場にもなっている。	委員は、地域包括、民生委員、自治会長、家族、入居者である。活動報告とそれに対する質疑が会議の主な内容となっている。12月から消防署員にも出席を依頼する予定である。会議で話題になった「近くの街灯を明るくすること」が実現している。	今後、消防職員の参加が予定されているが、さらに地域に溶け込み、様々な情報を得るために、地域の様々な立場の方の参加協力等に期待したい。臨時的であったり、ゲスト的な参加という方法も考えられる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換はもとより、普段から要介護者の受け入れや意見などを情報交換しあっている。	町が行う研修や、講演などには積極的に参加するようにしている。100歳を祝う行事には市職員も参加してくれた。また、町からの中学生の事業所見学などの依頼にも対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、適時学習している。日常的に出入り口を開放しており、拘束は行っていない。	「管理しない、壁を作らない」など、利用者の尊厳を大切にする理念を念頭に、日常のケアに対応している。帰宅願望で外出傾向の方には、制止することなく対応している。出入り口やウッドデッキは解放されており、出入りは自由となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを使い勉強会を行っている。又、日頃より職員間の連携を図り虐待を見逃さないように気をつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用対象となる入居者は、居ないが制度についての勉強会を行い、さらに理解を深めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面の内容を、出来る限り平易な言葉で、解りやすく説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議に、意見を伺っている。また、月1回の利用料の支払日などを活用し状態の報告とあわせ希望などを伺っている。	運営推進会議や毎月の料金支払日の際に、お便りと併せて運営状況や入居者それぞれの暮らしぶりなどを話し、家族からの意見も聞いている。これまで家族からは外出の機会を増やすことについて要望があり、これに対応している。	家族と事業所との対話、意見交換のみならず、行事等で複数の家族が集まった時に家族間でも意見交換できるような機会を作ることで、利用者も含め率直な意見の収集ができるのではないかとと思われる。今後の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の、部署ミーティングを行っており、その内容を同じく月に一度の運営会議に報告している。	月に一度の職員会議(部署ミーティング)で意見交換しているが、随時気付きがあった場合にも職員間で議論するようにしている。シフトの組み方などで意見が反映されている。自己評価も職員が参加し、各自が評価を記入することとし、取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告を元に、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成して法人、グループホーム協会、自治体の研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に加入し、相互に交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査や本人の話を傾聴することにより、話しやすい雰囲気を作れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	言葉で聞き取ることだけではなく、表情などからも気持ちをくみ取り、対応できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から、良くお話を聞き取り適切に対応できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者との間でお互いに教え、手伝い合う関係を作れるように心掛け、対応するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人を支えるものとして、お互いの立場を尊重し、協力者となれるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やお祭りなどに出来るだけ参加するようにしている。また、個人の希望により外出の支援を出来るだけ行っている。	昔なじみの人で、散歩がてらに立ち寄ってくれる人もいる。知人友人など、多い時には月に10件程度の来訪者がある。家族とお墓参りに行ったり、年賀状を出すことを支援するなど、馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	症状の違いでうまくコミュニケーションが取れない場合があるが、職員が間に入ることによって良好な関係が取れるよう心掛け対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との馴染みの関係を継続していけるように、心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話から汲み取るように努めている。その内容については、職員間で共有し検討している。	動作や口ぶりから、本人の希望や意向を把握するように努め、対応について検討している。身体的な機能の改善についての希望、話題が多い。おしゃべりをしたい、という話が出ることもある。職員それぞれが知り得た情報は連絡ノートを通じて全員に周知するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報に加え、本人との日常会話からも情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者との時間を大事にし、それぞれの方々の自然な状態を把握できるように努めている。（出来る事、出来ない事、好き嫌いなど）		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの希望や意向を聞き、アセスメントを行い、計画担当者と介護職員の意見をまとめて計画を作成している。	本人にとって何が一番必要なのかを、職員同士で確認している。計画作成に当たっては、自立に向けて、本人の力を活かした必要最小限の支援ということを意識している。訪問診療、訪問看護を実施しているので、医療面では詳しい状況が把握できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録への記入をするだけでなく、特別な事項については毎日の申し送りなどで、確実に情報を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に、家と同じ生活の場であることを念頭に置き、自分らしく生活してもらえるように努めている。また、いろいろなニーズにも柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の住んでいた場所に出掛けてみたり、近所の方々と交流出来る場を設け、話す機会を作れるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、日々連絡を取り合い、適切な医療を受けられる体制を取っている。	同一法人内の佐渡医院が協力病院であるが、入居時の家族の同意のもとに、同病院がかかりつけ医となっている。月二回の訪問診療、週一回の訪問看護を実施しており、結果については家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としては看護師の配置はないが、週一回、看護師の来訪があり、そのときに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族の不安を解消し、安心して治療できるように、情報交換を密に行い、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じた個別の説明は行っている。検討は行っているが、方針の確定までには至っていない。本人・家族の気持ちに十分配慮しながら進めていきたい。	看取り指針は作られており、本人や家族の意向により医療機関と連携して対応することとしている。これまで看取りの経験はないが、具体的な要望があれば、体制などについても十分検討しなければならない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料により学習している。加えて避難訓練のときなどに消防署より実技指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難をしており、備品も備えている。消防職員・近隣の方々に参加していただき協力体制を築いている。	毎月、避難訓練を実施しており、最近では昼食後に夜間想定の実施している。3月と9月には消防職員の立会で防火訓練も実施している。電話連絡などで、自治会長や町内の近所の家にも参加してもらうなど協力をお願いしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時において最小限の介助にて対応し声掛け時の声の大きさも一人ひとりに合わせて対応している。尊敬すべき年長者であると念頭に置き敬意を忘れない対応を心掛けている。	自立を目指す理念のもとに、さりげない誘導で自分で行えることは、基本的に自分自身でやってもらっている。個々を尊重し、多様な個性に合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望を汲み取れるように、言葉だけでなく表情や仕草などにも留意し対応するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員からの押し付けにならないように、心掛けながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者から希望があれば、化粧品を買ったり、気染めをしたり気兼ねなく楽しめるよう支援している。服装については、時節にあった服装になれるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れた献立を作成し、それを元と一緒に買い物や調理を行っている。時折、作り方を入居者から聞きながら、おかずを作ることがある。	献立は入居者の希望も入れながら調理担当の職員が作成している。食材の買物には、入居者も行っている。野菜を刻んだり、食器を洗ったり等は利用者も可能な範囲で参加して行っている。誕生日、お盆、正月など季節に応じた料理にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を、法人の栄養士にチェックしてもらって助言、指導を受けている。また、身体機能や好み、薬の事情などに応じて適宜変更し、楽しく食事が出来るように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けし、適宜介助もしている。週2回は、義歯洗浄剤を使用して義歯を、消毒洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの行動パターンや身体レベルに合わせ誘導や介助を行い、現在オムツを使用しない生活が全員できている。今後も継続できるよう努めている。	個々の排泄のパターンを把握し声掛けや見守りしつつ、(排泄の)自立を意識した関わりを基本的な対応としている。夜間も、特に声掛けはしない。おむつやリハパンを使用している入居者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医からの指導を受け、危険性について職員共通の認識を持って取り組んでいる。毎日の運動や食物繊維、水分摂取などに気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴できる日を設定しているが、それ以外の日でも希望によって対応している。本人の希望によっては拒否される事もあるが、時間を置いて声を掛けなおすなど、本人の意思を尊重するように留意している。	入居者の方々は入浴を楽しみにしている様子であり、適宜、足浴なども対応している。入浴は週3日程としているが、希望があればそれ以外の入浴も可能としている。入浴の際の介助で、希望により同性介助に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の流れの中で、それぞれが自然に過ごせるように努めているが、閉じこもりにならないようにも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書、インターネット等で薬剤の情報を確認し、回覧することで情報を共有し、理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯たたみなど一人ひとりに合った日常に活動がある程度任せて行ってもらうことで、役割を持って生活してもらえるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど、楽しく外出できるように支援している。また、一人ひとりの希望にも出来る限りの対応できるように努めている。	天気の良い日には出来るだけ戸外を散歩するようにしている。事業所の周囲は果樹園も多いので、季節によってはリンゴ狩り、栗拾いなどを楽しんでいる。行楽シーズンには、法人の車で遠出をして、花見や紅葉狩りなどに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援や行事にて外出する際などに、買い物の機会を設けるようにしている。また、一人ひとりに合った援助にてトラブルにならないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いたり、プレゼントの御礼の電話また取次ぎをするなど、繋がりを保てるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで育てた花や、みんなで作った作品を飾るなど、穏やかで居心地の良い場所になるように心掛けている。	リビング兼ダイニングの広いガラス戸に面して芝生や花壇、更にその先に農地が広がり、四季の移ろいを楽しむことが出来る。リビングの近くに、小上がりが2カ所あり、思い思いに使われている。トイレ5ヶ所が分散して設置されており、入居者への配慮が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	周囲から死角になるスペースが2箇所あり、時折入居者同士で、いろいろな話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物は自由に持ち込める為、タンスや仏壇、花などを置いている方も居る。本人の希望を生かしながら、安全に配慮して対応している。	居室は、床はフローリングで、ベッド、タンス、洗面台が備え付けられている。その他私物の持ち込みが可能で、テレビや仏壇を置いている人もいる。人形などが置かれたり、写真が飾られたり、思い思いの居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっていて、安全に動ける設計になっている。各居室やトイレには、わかりやすい位置にプレートを設置している		